

東京歯科大学同窓会会報

東京都千代田区神田
三崎町一ノ七
発行所
東京歯科大学同窓会
編集兼加藤倉三
発行人
電話九段(33)8446(代)

母校新館落成・大学院開設

記念式典盛大に挙行さる

去る六月十四日(土)午前十時より水道橋畔の母校本館ホールに於いて、新館落成、大学院開設記念式典が盛大に挙行された。千余の来賓並びに校友同窓を田村理事司会の下に、石川理事長の挨拶、福島学長の経過報告、に引き続き、感謝状贈呈が行われ、本会西村会頭以下病境、次いで文部大臣、歯科大学代表(松垣東京医歯大歯学部長)の祝辞があり、十一時式典を終了、新装成つた学内の参観があり、四階に特に備けられた大安会場にてビールパーティーが、盛大に行われた。



上段右 学長挨拶
下段右 参列者の学内参観

上段左 理事長より感謝状を贈られる西村会頭
下段左 ビールパーティ風景

式典終了後

椿山荘にて慶祝会開催さる

同窓校友六百余名の集い

六月十四日、午前の式典後、午後二時より文京区椿山荘で、これ又盛大な慶祝会が開催された。全国より参集の同窓校友のみの極めてなごやかな会合として、来会者六百〇名、心から母校の躍進を寿ぎ合った。

井上副会頭の開会の辞に始まり西村会頭の挨拶、佐藤日南会長の祝辞等に、学生諸君のかなでる友人裸足の軽音楽、同窓有志の特別出演の余興に、会場のそここゝにクラス会が出現し、初夏の半日を心ゆくまで祝ひ合った。

慶祝会場の乾盃



挨拶を述べる西村会頭



見まごうばかり立派になった母校の近況に、遙々来会された同窓は声を挙げて驚嘆しはし。「昔の校舎は電車通りの向いにあつて……」と夢にも思わなかつた新装振りに喜んで居られた大先輩は二人や三人ではない。

慶祝会の席上、北村宗一氏から「本日の式典に当り奇蹟があつたので報告する」と次の様な発表があつた。

式典当日の朝、大学院建設常任委員ことに建築委員長の同氏が、かねて慶応病院御入院中の奥村名誉学長に報告に行かれた。残念ながら、目下の奥村先生には、御目にかゝつても親しく御話しをしたり、して頂いたり云う事は全く不可能とのこと。然るに当日、北村氏が「先生本日は大学院の落成開設式典が行われます。これから行つて参ります」と挨拶されると奥村先生は同氏の手をしつかりと握られ、いつ迄も離さず、この言葉が諒解された如くであつたとの

こと。「大学院建設を自分一生の仕事とし度い」と言われ、準備委員長として不幸中途に病牀の人となられた奥村先生を思い、会場ですつと涙を拭う人々もあつた。

記念式典慶祝会余滴

西村会頭は慶祝会の挨拶で「母校のこの輝やかしい大学院建設と共に教授陣の一層の奮起を希望する」と述べられたが、次に立つた佐藤運雄日南会長は、私は本校

今般の式典ならびに慶祝会の舞台裏で主任として活躍したのは渡辺富士夫助教(保存学教室)である。学内のもの／＼の行事にも常に助教、講師、助手群のリーダー格で、渡辺興行の社長と自他

西村会頭負傷入院さる

経過良好八月二日退院
目下塩原で療養中



本会会頭 母校名誉教授・西村豊治先生は、去る七月三十一日午後八時三十分頃母

校よりの帰途、御自宅附近道路上にて、後方より疾走して来たオートバイに追突され、右前胸桃骨尺骨々折

並びに全身打撲傷を受けられた。翌日、国立東京第二病院に入院され、骨折部の整復固定の上加療を受けられ、経過極めて良好、去る八月二日退院され、御自宅で静養引き続き通院加療中であったが、八月十三日より塩原国立温泉療養所にて約二ヶ月間後遺症の加療を続けられ

塩原に御出発の前日、御自宅に至極御元気に次の如く語られた。今回不慮の災難で長らく病臥したため、親しく会務を見る事が出来ず

共に許している。準備委員会の席上、キビ／＼した報告振りに同じく準備委員の父君渡辺昌夫氏(世田ヶ谷区開業)が目細めていた

立派になった母校、盛大だった式典慶祝会。当初の予定より早く母校に大学院が開設され、力強く発足している。さて、こゝに大切な問題が一つある。大井教授の言葉を拝借すれば「ゼニ」である。成る程大学院建設資金は予定の数字をや／＼上回る申し込みを同窓各位から頂いてはいるが、現金の払い込み状況は残念乍ら予定を下廻っている。金を母校に送る事は多忙な臨床家には面倒至極の事と重々お察しはするが、膨大な借入金によつて新館を建設し、大学院を開設した大学当局では銀行利子だけで莫大な額に上つている。御払い込の方も、大学院開設に歩調を合わせて頂く是非共予定より早めて頂くことを切望する。

深く恐縮に思つている。幸い井上副会頭以下役員各位の格段の御尽力により会務が滞りなく運営せられているのでこの点は意を安心して静養出来ることは感謝の至りである。この長い約五十日に亘る病臥中同窓諸君から御丁寧な御見舞を賜わり再三御慰問にあづかり或いは又全国各地の同窓諸君よりも御懇篤な御見舞を戴き真に感謝感激に堪えない。こゝに満腔の謝意を表する次第である。(四頁五段へ続く)

杉山、米沢両教授 高添講師、川村助手四氏を囲んで

本会主催歓送会開催さる



去る七日二十六日(土)午後六時より、文京区大塚町若溪会館において、本会主催の下に八・九の両月間に国外に出張あるいは留学される杉山、米沢両教授を始め、高添講師、川村助手の歓送会が盛大に挙行された。

校命により九月四日欧米に出張される杉山不二教授、日本学術会議代表として八月一日出発第七回国際微生物学会に出席の米沢和一教授。スエーデン政府給費留学生として八月十一日出発の高添一郎講師(細菌学教室)、フランス政府給費留学生として九月中旬出発の川村顕助手(市川病院内科)を迎えて、一三〇名を越える同窓校友が集り、なごやかな

敢えて同窓諸賢に懇ふ

福 島 秀 策

先般歯科医師政治連盟の推挙により同窓鹿島俊雄君が来年の参院選挙に全国候補として打つて出られる事が決定してその応援母体として鹿島俊雄後援会が母校同窓会を中心として発足した事は既に御承知の通りである。

私共は歯科界の一人として将又同窓の一人として同氏の出馬に対しては満腔の誠意を以てこれを迎え同氏の手腕力量に対しては絶対の信頼を抱くものである。

然しながら天下の状勢必ずしも前回竹中氏の場合と同一視すべからざるものがある事も察知せられる。か

昭和三三、八、二五、誌す

歓送会であつた。本会白川幹事長司会の下に、福島学長、井上本会副会頭等の歓送の辞に始まり、杉山、米沢両教授以下国外に出張される先生方からも、元氣溢れる抱負の開陳があり来会者一同四先生の万才を三唱して九時近く散会した。

杉山教授

九月四日午前十時
欧米の旅へ出発予定



上段記
載の如く
母校杉山
不二教授
は校命に
より九月
四日午前
十時羽田発のスカンデナビヤ航空機にて欧米視察の旅に出発されることになった。

九月五日ローマ着、パリ、ウエーン、ベルリン、ロンドン、ポストン、ニューヨーク、ワシントン、シカゴ、ロスアンゼルス、メキシコ等を歴訪され、十月二十二日帰国の予定である。

米沢教授・高添講師 元気で出発



米沢和一教授は日本学術会議代表の一員としてストックホルム

去る八月四日より八月十三日まで開かれる第七回国際微生物学会に出席のため八月一日正午羽田発SAS機(北極回り)でストックホルムへ出発。八月十二日、スエーデン政府給



費留学生となつた高添一郎講師のストックホルム到着を待つ

同君同道、十四日よりアムステルダム・ロンドン・パリ・ベルリン・ミンヘン・ウィーン・リスボン・マドリッド・ローマとヨーロッパ各地の細菌・血清学研究所および歯科大学を視察し、九月三十一日コペンハーゲン発SAS機(北極回り)で帰国される予定。

高添講師は米沢教授とスイスで別れてストックホルムへ帰り、同地のThe Royal School of Dentistryで八カ月の留学期間を過し明年五月帰国の予定。

鹿島俊雄 後援会設立総会に おける挨拶

本日は、私のために、か様な盛大なる後援会を御催し下さりまして厚く御礼申し上げます。

本日御来臨の方々には、日頃私のたとなく歯科業確立のため努力致す決心であります。



この御好意に酬ゆるため、私は父祖伝来の業務も弟共に譲りまして、歯科医人として一すじに努力致すことに相成りました。

御集りを頂き、同窓会に於きましても会頭以下多数の方々御参会を頂き、只今私のための御後援の会則を拝見し感泣致しておる次第で御座居ます。

皆様方の御厚情に本日私のため結成して頂きました鹿島俊雄後援会は欠陥の多い、御小言の教々を賜わっておりまします私に対し、まして、業績織見を除外し、厚いおぼしめしから校友としての御叱正を頂く会と存じて居ります。

私は若輩、かつ欠陥の多い男であり、去る昭和二十二年新制歯科医師会発足以来、佐藤会長の下に審議会の委員となりまして、入交、小椋と三代に亘る歴代会長の許にお仕え致して参り、仕事において大過なく職責を果せました事は、一重に歴代会長のお蔭であります。

しかし、私は過去十一年間歯科医政の末席に連り、深く考えました事は、社会保障制度を除いて今後歯科医療は無いと云うことであります。

私の如き者に、一つの御期待を頂いている状況を見て、私の半生を歯科医政のため捧げ、これによつて職責を果し度いと念願しております。

皆様の御手厚い御気持を忘れることなく歯科業確立のため努力致す決心であります。

私の経歴の中には歯科経歴以外にはありません、これは先輩諸氏の御気に添いたためであります。幸い、最近健康に恵まれました身に鞭ひ粉骨砕身所期の目的に邁進致す決心で居ります。(文責記者)

国際歯科学研究会総会 (IADR) 出席記(二)

ワシントンにて 田熊庄三郎

齶蝕学方面では、実験齶蝕が非常に旺んで、多数の動物を厳重な管理の下に飼育し齶蝕発生の動態を細菌学的遺伝学的、栄養学的、統計学的その他あらゆる分野からそれぞれ示唆に富む観察を行っている。それに関連して、動物の無菌飼育も行なわれている。

NIHでも、この方法には、莫大な予算を計上しているが、その成果には尙日時を要するようである。

さて私は、第一日の午前中 "Peritubular Matrix in Dentine" と題して十分間の講演を行った。実際には十五分間かつたのであるが、それでもベルが鳴らなかつたのは、スコット氏が予め座長に了解を得ておいて呉れたためである。その後わかつた。不眠でボンヤリして居る上に小生には最初の英語講演のこととして大いに上り気味であつたが、聴衆にまざつてナイレソ女史と肩を並べたスコット氏がしきりに目で合図して呉れるのに励まされてゆつくりと原稿を読み初める。所が何を間違えたのかスライド係が、途中でスライドを点じてしまった。聴衆も中つたものと心得て拍手したが、私があわてて「アイアムソーリー、まだスライドがあるんですが」と言うところまで笑い声が出る。

思わぬ俸せを得たわけである。この講演の他に、スコット、ナイレソ博士と連名で、電子顕微鏡の展示を行った。これは、スコット氏がエナメル質結晶の超微細構造を、ナイレソ女史がアモロゲネーシスを、私がオステオゲネーシス(特に軟骨性骨発生)を担当して行つたものである。このわれわれの展示と列んで、ハーバード大学のソグネス教授にエナメル質の結晶と、口腔粘膜切片の電顕像を展示していた。これは興味深いものであつた。が、その中で、ある核内構造物に "Electron dense state line" という奇抜な名前がつけられているのには微笑させられた。

学会の合間はロビーで多くの人々と接することができ、大変楽しい時を過ごすことが出来た。研究発表もすることながら、この研究会の本当の意味は、むしろロビーや廊下での個人的交際にあるらしく、人々はそれぞれ相手を見つけて終らないデイスカッションを楽しんでいる。こんな光景は、日本では見られない一寸珍らしいものとして私の目に映つた。言葉の不自由な私には大いに苦痛も伴つたが、スコット氏の積極的な誘導のままに、多くの方々と手を握り言葉交すことが出来たことは、この上ない俸せであつた。

目のあたり見るこのCFポデッカーは、一寸チャールを思わせる風貌の持主である。私の講演もよく聞いて下さつたらしく、次々と質問を寄せられて私も大汗の態であつた。その質問の中に「象牙質を生活組織と考えるか?」というのがあつたが、今日ではむしろ陳腐に聞こえるこんな質問も、歯牙の代謝に發生を促しているこの礦質は、直接に発生されるのを聞くのは、全く身のひきしまる思いであつた。

そこで会つた方々の中には、ポデッカー、ペーベラマンダー、クリッヂ、ロビンソン、トーマ、アームストロング、ロビンソン、ポール、フイッシャー等の著名な人々もふくまれている。この中で特に私の印象に残つたのは、ポデッカーとクリッヂ博士である。

又同博士が日本に少なからぬ関心を寄せていることもよくわかつた。博士はレディイムラサキの小説を読んでおられるという。つまり紫色部の源氏物語のことである。私は驚いてあれは非常にむずかしい本で、私も学生時代から何とか全巻を原文で通読したいと努力しているが、いまだにそれを果すことが出来ない。説明するたびつくりしたような顔をしておられた。ある時私共がそんな話をして居る時に、たまたまポデッカーが通りかかつた。「あれがポデッカーだ、まだ会つてないから私が紹介しよう」といわれるので「既にお会いしたから」と御辞退した。これを機会に話はポデッカー業績に及んだ。私が、「ポデッカーは歯科界の巨人だ」と正直に敬意を表すると、クリッヂ博士ははつきりと、「私はそうは思わない。彼はニシムラを読んではない、彼の珪瑯質の研究をニシムラがそれに比較すればはるかに見劣りする」と断言されたのには私も少なからずあわてざるを得なかつた。所がこのクリッヂ先生も、西村先生の先生である花沢先生のことを知らないのを知るに及んで私は二度びっくりした。(以下次号)

著席するのを待ちかまえていたように傍に来て、開口一番「ニシムラを知っているか」ときかれた。「私の知り合いにニシムラは沢山います。もう三十年程も前に珪瑯質の研究を発表したニシムラだ」といふ。それなら私の母校の西村豊治教授で私もよく存じ上げているという大喜びで、それから廊下に連れ立つて出て一時間以上も西村先生の近況やら珪瑯質の構造やらに話の花が咲いた。私も西村先生の御仕事は詳読して充分記憶している自信があつたが驚いたことに、クリッヂ先生は、私の失念しているような微細点までも実によく知っているのである。そして「私はいまだかつて、ニシムラの仕事のようなすばらしく美しい仕事は見たことがない」と口を極めてその業績を絶賛された。それからクリッヂ博士とはロビーで顔を合せる度に三十分、一時間とおしやべりするることができた。そんな間に、西村先生とは是非文通したいから便宜を与えて欲しいとか、日本の歯科学専門誌のリストを詳しく作つて送つて欲しいとか、研磨標本を作る機械で困っているが何か知恵はないとか、色々な注文やら相談やらをうけた。

金納入方法に關し熱心な対策が議せられた。大学院建設に際し二億四千万円に及ぶ現在の借入金に、その利子のみでも三六年の完済までに、五千六百万円を支払わねばならぬため、同窓各位から一刻も早く寄附金の納入方を切望された。

東京歯科大学進学課程 入試科目について

昭和三十四年度 入学試験科目について、左の如く一部変更が発表された。

- (一) 数学については、下記の通り変更となつた。
 - (A) 数学Ⅰ(旧教育課程)
 - (B) 幾何(旧教育課程)
 - (C) 数学Ⅰ代數(統計を除く)
 - (D) 数学Ⅰ代數(空間図形を除く)
 - (E) および数学Ⅱ(変化率を除く)
 - (F) および数学Ⅲ(統計を除く)
 - (G) 上記の選択は卒業年度にかかわらず。例えば三四年の卒業生が(A)や(B)を、三年度の卒業生が(C)や(D)を択んでも差支えない。
 - (H) 其他の科目は従前通り。
 - 国語(甲)
 - 理科(物理、化学、生物、地学)
 - 中から二科目選択
 - 外国語(英、独、仏から一ヶ国語選択)
- (二頁五段より)
- 今回の奇禍で幸いに生命を全うし得たのは、まことに天祐と申すべきで全快の上は捲土重來の意気で会務に当り度いと思つて居る。

本会主催夏期講習会終る

既報の如く、今夏、母校に於て開催した夏期講習会は、理工、矯正、口腔外科、病理の四科目について開催され、四十五名の参加会員を迎え終始熱のある講習会であつた。

大学院建設実行委員会 表者会議開催

去る七月十八日(金)午後三時より母校において都内及び近県同窓会支部長参加の下に開催され、建設費

各地同窓のうごき

静岡県支部総会報告

新緑薫風の五月二十四日五日伊東温泉多比館で、第十六回定時総会を開催。母校より西村会頭榎本前会頭堀江教授を迎えて、講演と懇親の宴を設けました。福島学長は御健康上の都合から欠席され残念でした。出席者六十余名に及ぶ盛会で海岸に沿って伊東でも景観が第一、設備よく庭園も定評ある一流旅館で、地元会員の一方ならぬ尽力で準備万端整い、和気藹々の裡に開会の辞を副支部長森田福造君が述べ、

記録によると昭和十五年五月二十二日故五十嵐準君の発議により、伊東の地かや旅館に於て血脈先生奥村学長を迎えて盛大なる創立総会を開催し、以来今日に及び十六年を経過したる喜を述べられ、後刻岡山君は其当時の記念写真を持参し、一同是れを眺めて、感慨無量でありました。

次に徳永支部長の挨拶あり昨年中の物故されし会員高成田稔君、鎌田清一君、塚本良三君鈴木武夫君の冥福を祈り黙禱を捧げ会務報告及三十二年度決算認定の件を浅井幹事長計り承認、本会員にて今回医学博士の学位を受領されし鈴木秋雄君に支部より祝辞と記念品を贈呈。森田博道君の司会にて、西村会頭より母校同窓会の近況を詳細に承りその使命の重きを深く思い、大学院建設に就て福島学長に代り、榎本先生より、建設計画より建築落成し四月一日より開院に至る経過報告あり。奥村先生御生存中に此事あるを共々喜ぶとの声涙下る、感想を述べられ、一同襟を正して拝聴し今後の運営に、助力

を誓いました。

次に補綴の講演に移り堀江教授は「無歯顎の陶歯排列に於ける一便法」と題して咬合採得より陶歯排列に至る蘊蓄を傾けて二時間に及ぶ講演をスライドを利用していたれり尽せる説明で臨床上啓発される所多大でありました。

休憩後青海原を一望の下に収むる庭園で記念撮影。一風呂浴びて懇親の宴を評議員、土屋清枝君司会で大広間土地美形十数名のサービス満点なごやかな雰囲気の中に談笑。興到り隠し芸統出戯を尽して宴を閉ぢました。

翌二十五日午前九時より堀江教授昨日に続き講演あり終つて会員の質問あり十一時副支部長松田潔君の閉会の辞ありて散会しました。(徳永記)

出席者氏名(敬称略)

- 榎本允男、栗田春海、五十嵐聖昭、土屋清枝、土屋謙一、木村巨太郎、小川知二、有本穰、岡山章、甲斐清、西山平作、遠藤茂、土屋勝雄、杉本幸、堀江茂樹、神田秀彦、笹本平蔵、大藤幸雄、徳永寅蔵、徳永富士雄、外主三、増田朗、鈴木安夫、森田博道、新保政美、浅井寿一、栗田稔、田川明知、小山彦平、大内弘一、深沢一祐、高木三三男、望月弘章、山実太郎、朝浪惣一、河村孝義、丸子敏四郎、鈴木秋雄、木村幸人、河村三省、松田潔、河村忠篤、若尾秀夫、中原欽吾、上田淳、平岡光一、岡村一夫、五条万次郎、河村秀正、赤堀開吉、板倉一民、山下初彦、藤田彦平、早川博、市川潔、榎本要二、森田福造、小野田幸太郎

一志会

十五週年記念クラス会席上において、一度関西で会を開きたいとの片山和夫君の提案がありました。此度、同君が中心となり大塚、大西(光)、津守君らが在阪会員の御努力により、ゴールデンウィークの五月三日、大阪山錦旅館において本会が開催されました。集り者二十二名、チャンコ鍋をつまみながら旧交を温めました。

クラス会便り

大西光昌、大塚信一郎、佐野兼介、佐々木進、小原勇、忠隈良次、津守剛三、津江四郎、岸正明、高橋立夫、大野実、長谷川正康、尚、十五周年記念品として、母校図書管内花沢文庫に貴重図書保管用本箱を贈呈致しました。御知らせ致します。

昭久会

暑中御見舞申上げます。去る六月十五日悟空林にて、安達(直)鈴木(嘉)鈴木(哲)鈴木(国)松崎、後藤、田村、武井、田中小川、草柳、高橋(誠)荒畑、朝長小木原、谷越、中村(喜)瑞、吉田諸兄の出席を得て、盛大に近在有志会を致しました。定刻をやむ遅れや、安達(直)カメラ技師のあざやかな手さばきにて、氏自身撮影の天然色を交えた京都合会シネマから始められ、次々に、武井、松崎のフィルム、中に、高橋の天然色写真幻灯を交え、見る中に、会合の一こま々自分の姿に再現され、客観的に見る自分の姿に感心すると同時に、まさしく、と会合の楽しさが思い出され、思わず誰、彼の名を、口ずさむ興奮のつぼ。夫人連中の撮影にも興奮の気がつかかれた撮影技師の苦心もしのばれ、今宵の会合に夫人を勧誘せざりしは小生の手落ちと、悔まれました。

右シネマ観賞を約一時間で終り宴会に移れば、興奮の延長にて、又々酒が足りない勢いで、追加追加大分皆さんに御迷惑をかける次第。芸技と芸を競う内、之も又京都合会の再現裏に終り、三々伍々二次会へ。

右会合で御報告しましたが、去る五月二十五日に、松崎、後藤、中山小島の四名で、閉病生活八年に及ぶ萬西を病院に、見舞いました。つれづれの慰めにも、と京都合会のアルバムを持参しました。我々と話をすべく庭迄出て来られる程ですが、整形手術を必要との事。然し乍ら、体力の関係でまだ出来ず、為に退院も未定の状態です。諸兄の激励を御願ひしますが、又、顔面も見舞はいたしません。又、脳出血静養後、半身の不自由をおして、令夫人の助手の下に診療に従事して居られるとの事、激励を御願ひいたします。

末筆になりましたが、北海道の元老、松川の岳父佐藤勲次郎先生が、五月逝去されました。松川氏の嘆きも一人と思ひますが、大学院誕生とは申せ、前途に見るべき物の多い時此の訃報は、同窓会にも重大な損失にて、衷心より弔意を表し御報告いたします。

仁蜂会

再々で申わけありませんが、寄稿無き方があります。八月末必着にて一人一文必ず御願ひします。殊に京都合会後の帰途は、広谷も大変気にして居られます。帰途報告を是非お願いいたします。(安達嘉記)

なお、九州の角野君が北海道美吹の三井鉱山歯科医長として転任された由、御報らせいたします。

皆さんその後お変わりはありませんか。東京会も関西会も相変わらず、三、五月と隔月に旧友相集い、楽しい一席を満喫しております。

七月は左記の通り、開催されて東京からも七、八名参加し、総勢三十名を越える盛会となるもようです。

仁峰会関西、東海連合大会
七月十九日(土) 鶴岡観覧
同二十日(日) 岐阜遊覧
集合、岐阜長良川畔

会費 二千元
準備委員 杉山正彦
岩崎三千雄
永田 晋

加藤親、棟久正両君は今度、永年の研鑽の甲斐あって、目出度く学位受領されました。讀んでお祝い申上ます。何れ、今秋の総会で盛大にお祝をと思っております。

例の記念アルバムを眺めながら近況を、是非、幹事の許までお知らせ下さい。今年には会報を作り度いと思っております。

(吉峯、佐藤俊郎、堤)

十四会便り

螢雪の功を祝福され懐しい角帽からおさらばしたのはつい此の間の様な気がして居たが、光陰矢の如し再び帰ることない三十年が過ぎた。毎年母校同窓会を祝して十四会も總會を開き久し振りに顔を見せてくれた地方会員と何から先きに話してよいやらと積る話に花を咲かせながら過ぎて、こゝに三十年想ひ新たなものがある。

今年十一月二日にお江戸情緒深い墨田川附近で三十周年記念大祝賀会を開くことに決めた。在京会員はもとより地方会員諸氏の御出席を望むや切なり。尚三十周年を更に永く記念する為には記念誌の発行を計画してあるので各位の近況と家族歴史は要職の御披露を願ひ度い。第二世については在校名在学々年を添へて戴き度い。十四会第二世会の実現等

如何です。会誌は千円位いのものを作り度いと考へてゐますので全員御賛成の上高橋宅まで御送金願へれば幸。上京の節の宿泊についても御取り計ひ致します。祝賀会の詳細については後便に託しますが会誌原稿は至急御送り下さい。健保法の改正新点数の改正等私達の身辺も多忙。各位の御健康と発展を祈りつゝ先づはお便りの次第 幹事 高橋

学位受領者紹介



野間 伊豫 君
新博士野間君は名前が示すとおり愛媛県出身で本年四十七才、昭和五年母校を卒業し、横須賀市の川村南科医院に三年間勤務後、同市に於て独立開業日増に盛業を極め、推されて横須賀市三浦郡歯科医師会長、社会保険診療報酬支払基金審査員を歴任、次で神奈川県歯科医師会副会長に選任されて益々重きを加えてゐたが、嗣子に対して無言の教訓とすべく一念発起して木村哲二名譽教授の御紹介により昭和二十七年四月東京慈恵医大研究科に入学、生理学教室にて名取教授指導のもとに研究に精進せられ、同二十九年四月同研究科卒業翌三十年七月学位論文提出、翌八月満場一致論文通過、翌九月目出度く医学博士の学位記が授与された。野間博士は釣りが道楽で院務、公務多忙の日常を海釣りによつて慰安休養とされてゐるとゆう。家庭に於ては一男二女をもち長女は今秋結婚のおめでたと洩れ承る。初孫を得られる日も遠くあるまい。現在は横須賀市三浦郡歯科医師会参与。同会社会保険特

別対策委員長を兼務されている。(三年前に学位を得られたにも拘わらず同窓会事務所へ報告遅滞の責任は私にあり深く陳謝し、御健康御繁栄を祈るのみ) 謹 祝(兵藤弥夫記)
○主 論 文
一、水産縮に及ぼすPHの影響について
二、水産縮筋重量変化に及ぼすPHの影響について
三、水産縮筋の粘弾性に及ぼすPHの影響について
参加論文(三編) 略



佐藤 寛 君
佐藤君は、昭和三年五月、同窓会函館地区支部長佐藤辰三郎氏の次男として生

れ、昭和二十年函館市立中学卒業、同年四月室蘭工業専門学校入学、二十三年三月同校化学工業科卒業、同年四月母校東京歯科医専入学、二十七年卒業、直ちに札幌医科大学口腔外科学教室に研究生として入室、翌二十八年二月北海道教師拝命、(同室勤務)三十年九月同教室助手を命ぜられたが三十一年七月退職、同教室専攻生として専ら研究に従事数々の研究論文を発表して居られた。これらの成果をまとめて北海道大学医学部に提出、学位請求中のところ伊藤教授(生理学第一講座)主査のもとに本年一月九日めでたく同大学教授会を満場一致にて通過、越えて四月十五日栄の学位記を受領された。

の披瀝のもとに精勤せられ、臨床と研究を両立させて今日の成功を築かれたもので、恐らくは同級生としてはトップの偉業をなし遂げられたものと思う。
誠にお見上げた御性格と敬福に堪えない所である。
心から祝賀申し上げる。
いまは港都函館に帰られ、父君を援けて心静かに診療に従事しておられる。(近藤三郎誌)
主論文 人體滲透歯肉組織のAdenosinetriphosphataseの定量的検索について。
他 参考論文 六編



折原 一 廣 (旧名博)
昭和三十三年四月十七日熊大教授会は、日本人歯牙の咬耗に関する研究(五十頁)並に参考論文十二冊というほう大な折原博論文目録に目をみはりながら、万場一致可決した。(主査忍那教授)一言に研究生治十年早いえば簡単だが、戦後のテンポの早いきびしい世相の中で、正統な研究をきわめる事は至難の事である。多くの安易な方法で目的の彼岸に達した人にもくれば、朝な夕な厳父折原義人博士(熊大講師)のきびしい教育と、恩師佐々木教授の指導下で、歯科医学の盲点を克服してくれたい君に対し、心から敬意を持つたのは、熊大教授陣のみにとまらぬと思ひます。

同君は経歴でもわかるような誠に徹底した学問の虫ともいうべき青年学徒で、母校在学当時から精励格勤常に教友の範となつていた。幌大入室以後も、故金森教授、松野博士ら

研究に余念がないとか、また、戦前歯科に関する文献なら大学図書館より折原氏の蔵書を見た方が早いというのが大学の合言葉であつたが、蔵書は惜しくも焼失したが、いまなお研究の指導をうける研究者が跡をたないとか、九州の歯科医学隆盛の中心として、御活躍あらん事を念しながら筆をおきます。(上条雅彦記)



山口 昭 君
山口君は昭和三年江戸川区生れ当時秀才の蜚集した都立三中(関根教授、田熊助教授、饗庭博士等の出身校)に昭和二十年卒業翌二十一年三月都立衛生技術員養成所を卒業、同年母校を卒業、同年母校に入学、二十五年三月卒業、直ちに昭和医学専門学校最上級に編入学、二十六年三月同校卒業、東京鉄道病院にて一ヶ年のインターン後同年六月医師国家試験合格父君を援けて歯科診療と同時に内科小児科の診療に従事現在に至つてい

向学心に燃える君は、多忙な診療時間を割つて二十七年七月より当病理学教室に通ひ、田熊助教授に就いて電子顕微鏡の研究に没頭、慶大医学部電子顕微鏡室と本学間を往復、満五ヶ年間粉砕骨碎身努力された結果世界に誇るべき優秀な数々の研究成果を完成、これらを学位請求論文として東京慈恵会医科大学に提出、主査、高木文一教授(病理)副査、寺田正中教授(細菌)樋口一成教授(病院長)の三教授のもとで審査の結果、去る二月十日満場一致をもつて同大学教授会を通過、四月十二日付にて榮ある学位記を受領された。

日夜操まざる精勵に対し心からなる敬服を禁じ得ない。
このうえとも健康に留意され、益々大成されんことを祈る。
なお同君は、このうえもない良縁を得られ、去る十二日広瀬輝子嬢とめでたく華燭の典を挙げられた。
重ね重ねのおめでたに満腔の祝福を申し上げる。(松宮誠一誌)

主論文 超薄切片法による歯牙組織の電子顕微鏡的観察
他 参考論文 八編

石橋ミヨ君



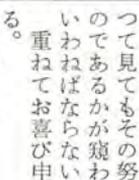
石橋さんは新潟県は佐渡生れ、昭和七年十月東京女子歯科医学専門学校を卒業され、直ちに秋田県小坂鉱山病院歯科部長として赴任、在職四年、昭和十一年診療所を現在の神田神保町に開設、さらに銀座表通りに出張所を開設、活躍せられていたが、医業股眼をきわめるに従って学問の深奥などを痛感され、昭和二十六年七月、出張所を医員に任せ、私を頼って病理学教室に入室、若いもの同様に交って実験病理学より臨床病理学と削身の研鑽を重ねられたが、三十二年十二月病理学教室助手となられてからはさらに研究多の研鑽を遂げておられた。その間数多の研究論文を発表せられていたがことに乳歯の歯髓炎に関しては、洋の東西を通じていまだかつてなかつた程の多数例について検査されたことは、実に偉大な業績といわなければならぬ。この問題を主論文として東京慈恵会医科大学教授会に学位請求中であつたが、前出の山口昭君同様高木文一教授主査となられ、臨口、大場兩教授副査のもとで審議が進められ、去

る二月二十五日、めでたく満場一致をもつて同教授会を通過、去る四月十五日付にて栄ある学位記が授与された。
誠にお目度限り限りで心からなる祝福を捧げる。
石橋さんが東京女歯に入学されたのはすでに中年ともいふべき時期で若い女性とともに勉学された点は、特筆大書に値する事柄であるうえに、更に研究室に入つて研鑽しようとして決心されたことは誠に驚嘆の至りである。主査となられた高木教授も感嘆これを久しうしておられたことをもつて見てもその努力がいかに貴いものであるかが窺われて心強い限りといわねばならない。
重ねてお喜び申上げる所であり、(松宮誠一誌)

二月二十五日、めでたく満場一致をもつて同教授会を通過、去る四月十五日付にて栄ある学位記が授与された。
誠にお目度限り限りで心からなる祝福を捧げる。
石橋さんが東京女歯に入学されたのはすでに中年ともいふべき時期で若い女性とともに勉学された点は、特筆大書に値する事柄であるうえに、更に研究室に入つて研鑽しようとして決心されたことは誠に驚嘆の至りである。主査となられた高木教授も感嘆これを久しうしておられたことをもつて見てもその努力がいかに貴いものであるかが窺われて心強い限りといわねばならない。
重ねてお喜び申上げる所であり、(松宮誠一誌)

乳論文
主論文 乳歯々随疾患の臨床診断成績と病理組織診断成績との比較に関する研究
他 参考論文 五編

伊藤博久君



神戸医科大学第一外科科学教室において、孤軍奮闘、孜々として研究完成された

同君の学位請求論文「歯髓痛覚の伝導に関する研究」が去る二月十九日同教授会において藤田登指導教授主査の下に満場一致通過したことは、わたしの心から祝福するところである。同君は昭和十四年三月母校卒業後直ちに保存学教室に入室、同七年開業し繁栄を極められたが、終戦に当り一大打撃を受けたにも拘らず、令夫人の献身的内助の下に再起し、神戸市の現診療所に拠つて名実共に市内一流の開業医としての地歩を築

くと共に、多忙な臨床の余暇を割いて、済生の恩師藤田教授門下に入り今日の栄冠を獲られたものである。家庭においては令夫人及び三人の愛児のよき父として、また良き夫として豊かな教養と趣味を生かして山手の瀟洒な住宅にいと円満に毎日を自適しておられる。今後良識ある歯科医人として益々発展されんことを切望する。(関根永滋)

松山茂樹君

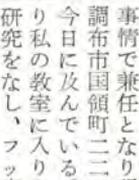


マツヤマ・シゲキ君は熊本県天草が本籍で満二十九才。昭和二十六年卒業する

や直ちに母校保存学教室に入室され杉山、関根兩教授の下、臨床に研究に励んでこられ現在講師を務めていて。田辺博士とも私の部屋で卒業論文を完成された関係もあり先年研究生として学内に派遣された。かくして君は教室の大きなテーマである松川、三沢菌を中心とするアノイリナーゼ作用の研究に取組まれ、かつアノイリナーゼ菌の抗菌物質を発見された。かねて提出中の論文は本年二月二十七日京都府立医科大学教授会にて藤田秋治教授主査のもと満場一致通過、越えて六月二十一日付榮ある学位記が授与された。新博士は綿密な観察力と性来の研究熱心さ、九州男児らしき毅然とした態度が幸して今日の栄冠を得られたものと思ふ。新博士には兼子夫人との間に一男あり。家庭では良きパパさんで、世田ヶ谷代田一丁目四〇一春借荘に住んでおられる。趣味は読書とか。今後とも歯科界のために尽されん事を祈るものである。慶祝(米沢和一記)

作用ならびにバチルスサイアミノリイテイクスの大腸菌発育阻止作用について(ビタミン十五巻一号)
○ 参考論文(六編) 以上

田辺明君



タナベアキラ君は新潟県刈羽郡黒姫村の産で三十才。海軍兵学校を経て昭和二十六年母校卒。直ちに私の部屋に入室、研究科を経て翌年助手に任ぜられた。その後家庭の事情で兼任となり現住所たる東京都調布市国領町二二三に開業せられて今日に及んでいる。同君は在学中より私の教室に入り主として衛生学的研究をなし、フッ素齲食予防問題を始め受賞論文を加えて多数の研究論文を完成された。又現公衆衛生院次長曾田博士仕込の統計が得意な点で当教室では特異な存在であつた。三十一年から私の恩師にあたる谷友次教授が永年研究されて来た梅毒スピロヘータの研究の一翼を担つてその形態学に一新知見を加えた。かねて提出中の論文は去る四月二十一日金大医学部教授会で満場一致通過、越えて六月二十一日付榮ある学位記が授与された。新博士は勤勉実直な人で、何事にも屈せぬ強い精神と熱情があり、その反面もの静かな友情に富む人である。令夫人との間に一女あり。夫人の母堂を加えて家庭は至極円満。新博士の今後の活躍を大いに期待している。(米沢和一記)

○主論文(一編)
梅毒スピロヘータの形態に関する螢光顕微鏡的研究(十全医学会雑誌六十巻三号)
○参考論文(七編)

橋口緯徳君
ハシグチ・ヒロシ君は、日光市清滝の生れで本年九月で満二十八才。昭和二十



十七年母校卒業と同時にわたしの教室に残り昇進して助教を務めているもの。既に在学中より家庭血液の炭酸ガス抱容能に及ぼすフッ素の影響を検討して立派な卒業を書き素の添加は白血球の食菌能力を高めることを発見し、わたしの持論である飲料水のフッ素化の無害説の裏付けをして貰つた。引続いて斯界の最高權威である伝研、沢井助教の門をたゝいて、細胞免疫説を構成する白血球の食作用の研究に本格的に取組み、ついに免疫体としての唾液オプソニンを発見したものである。これは口腔における感染と免疫の今後の研究の進展に対し一大指標を打ち立てたものとしてその功績は大きい。かねて提出中の君の論文は去る五月十二日の金大医学部教授会にて、主査谷友次教授のもと満場一致通過し、越えて七月五日付榮ある学位記が授与された。新博士は現在学友会の山岳部長をしており、学生や同級生間では面倒見がよいので評判は至つて宜しい。日光の自宅で歯科開業の敵父は同窓の先輩に当り歯科博士の橋口近義氏であり、長兄の精範君は医歯大産婦人科で目下研究中である。新博士は独身で母校に程近い文京区指ヶ谷町四石田方より通勤されてお

り至極温厚かつ健勝である。(米沢和一記)
○主論文(一編)
唾液オプソニンに関する研究。(十全医学雑誌六十巻四号)
○参考論文七編(略)

川村廉男君



カワムラキヨオ君は東京の生れ、昭和十九年秋の東医専卒で本年とつて三十四才。陸軍軍

後自宅で静養しておられたが、二十一年一月駒込勤務小児科に入局、同

出中の学位論文は去る三月三日の金大医学部教授会と谷友次教授主査、



君は私と同郷で富山県の生れ。昭和十八年最優

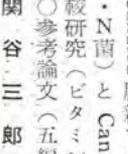
母校卒業し直ちに同県高岡市駅前で開業せられ、終戦後実家たる同市堀

また地区学校歯科医は勿論学会開催

に当つても進んで協力せられ、県歯医学会学術委員や市の歯医学会副会長も

かかねて提出中の本論文は、京都府立医大教授会を、主査藤田秋治教授

作家連盟会員でもある。昭和三十年母校卒の浦野潤君は義弟に當つてい



君は私と同郷で富山県の生れ。昭和十八年最優

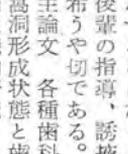
入學、十八年九月繰上げ卒業。同時に東部六部隊に入隊、二十年八月終戦後員まで滿二ヶ年の軍隊生活を

診療所を開設診療に従事、患者の名

を博しておられたが、血の気の多い同君は、一地方歯科医として一

爾來、寝食を忘れて自分はもちろん同僚の研究材料の蒐集に、研究の

願わくは現在の一小事の成功に安んずることなく、益々研鑽を積まれ



森沢 肇 夫 君 本学第一期卒業生として昭和二十八年三月優秀

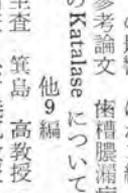
な成績で学窓を巣立つた同君は

当時雄図を抱いて札幌医大入りを取

行された故金森虎男教授の企画された採用試験の難関を突破、同大学助

ことに同君は、本大学卒業生の第一号博士として特記に値するもので

らなみに 主論文は I Actomyosin 溶液の粘度に対する Pysophosphate 及び Salyrgan



主査 箕島 高教授 (生理) 副査 松村義寛教授 (生化)

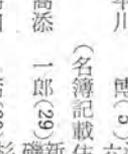
湯沢 哲郎 (31) 今市市今市四九〇 明楽 通雄 (5) 札幌市南三条西二十

近藤 三郎 中野区桜山町一三

田端 安治 埼玉県児玉郡児玉町 田端 淳二 (9) 大字児玉三三二ノ三

二階堂胤平 (26) 大田区久ヶ原町 永田 四郎 (9) 日立市上諏訪台

早川 博 (18) 浜松市入野町九四〇 (名簿記載住所誤りに訂正)



高添 一郎 (29) 新宿区津久戸町十 高田 恬 (29) 杉並区下高井戸四ノ

古賀 伝藏氏 三三、二 大牟田市 戸塚 武氏 三三、五 船橋市 坂登 正夫氏 三三、六、八 千葉市

逝去 會員

玉木圭二郎氏 三三、七、四 北区